



## 職員の声 尼崎総合医療センター 薬剤部

当センターは、県立尼崎病院と県立塚口病院が統合して、平成 27 年 7 月に県立尼崎総合医療センターとして開院しました。阪神地域中核病院として救急医療、周産期医療や高度専門医療を提供しています。また、災害時も機能し続ける災害拠点病院であり災害派遣医療チーム(DMAT)の活動も行っています。

今回は、当センターDMAT の活動と DMAT における薬剤師の役割についてご紹介します。

### ◆DMAT とは

Disaster Medical Assistance Team(災害派遣医療チーム)の頭文字を略したもので、「ディーマツト」と呼ばれています。DMAT は医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)の計4~5名で1チームが構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね 48 時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。当センターの業務調整員のうち2名は薬剤師です。



### ◆DMAT における薬剤師(業務調整員)の役割

DMAT の活動は現場活動、被災地の病院支援、患者搬送や本部活等多岐にわたりますが、DMATはこれらの活動を行ううえで被災地域に負担をかけないよう、それぞれのチームが自ら活動資源や移動手段等を確保しながら、自己完結型の継続した活動を行うことを基本としています。その活動の中で業務調整員は DMAT の活動に関わる通信、移動手段、医薬品、生活手段を確保し、連絡、調整、情報収集等のマネジメントを行う役割を担っています。薬剤師はこれらの業務調整員としての活動に加え、医薬品の管理や医薬品の適正使用を図るための医薬品情報の提供等の活動も求められます。通常の薬剤師の業務である調剤や薬剤管理指導とは異なりますが、薬剤師として災害現場で専門性を発揮するために、平時から医薬品の選定等、準備と訓練を行っています。



兵庫県立病院には5つの総合病院と5つの専門病院があります。それぞれの病院には特色があり、薬剤師としての専門性を活かして成長できる環境があります！みなさんも県職員の一員となり、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？

## 職員の声:加古川医療センター薬剤部



当センターでは全病棟に薬剤師を配置し、他職種と連携し適切な薬物療法の実現に貢献しています。今回は、救急救命センターの病棟薬剤業務についてご紹介します。

### 当センターの救命救急センターとは？

当センターの救命救急センターは、兵庫県東播磨・北播磨地域を対象医療圏とし、人口約100万人をカバーする併設型救命救急センターで、3次救急医療に特化しています。

年間受け入れ患者数は約1000件。そのうち外傷が4割を占め、広範囲熱傷や中毒等の外因性疾患から心筋梗塞や消化管出血等の内因性疾患等多岐にわたります。

### 救急病棟担当薬剤師のある1日

#### 8:45～ カンファレンスに参加

毎朝、担当医から前日から朝までに受け入れされた新規入院患者の初療室での経過、今後の治療方針についてのプレゼンテーションがあります。重症患者の病態をいち早く把握し、他職種と治療目標を共有することでより迅速で適切な薬剤管理指導につなげます。

#### 9:15～ 回診に参加

ICUの回診に同行します。回診では既入院患者の経過について主治医から申し送りがあります。状態の変化が著しい救急病棟では前日の夕から今朝までの数時間で状態が大きく変化していることも少なくありません。

#### 9:45～ 薬剤管理指導業務

患者のベッドサイドでバイタルサイン・検査値・状態変化を確認し、投与薬剤や投与量・投与方法・投与ルートの評価します。腎機能障害・肝機能障害・透析・人工心肺の使用・熱傷は薬物動態に大きく影響します。そのため医師、看護師からはこれらを考慮した薬剤選択・投与量・投与方法についての相談が多くあります。

#### 11:00 救急患者到着！全身熱傷・気道熱傷疑い

初療室で直ちに処置が始まり大忙し！薬剤師もICUから初療室へ移動し、患者情報を確認します。

全身69%の広範囲熱傷（Ⅲ度：55.5% 熱傷予後指数：82）ショック状態で大量輸液開始。

「この患者さんでビタミン大量療法すると投与量はどれぐらいかな？」**（薬剤師）この患者さんの場合、論文では1日72000mgです！**「よし、それでいこう！」**（薬剤師）持続投与になりますよね！追加発注します！**→すぐに卸へ医薬品を追加発注。「**（薬剤師）先生！抗生剤はどうしますか？**」「**気道熱傷があるから投与しよう！**」「**（薬剤師）腎機能は悪くないのでスルバクシン注1.5gを1日4回でいきますか？**」「**そうしよう！**」→**（薬剤師）スルバクシン注用意**「**ビタミンCはどのルートからいったらいい？**」「**（薬剤師）ミダゾラム、アルブミンとは配合不可なので、オノアクトのルートからお願いします！**」

この日は、薬剤管理指導と並行し初期治療対応を行いました。重症患者さんを目の前にして焦りや緊張はありますが、他職種スタッフと協力し多くの命を救命できるように責任感をもって取り組んでいます。

薬剤師の専門性を活かすことで救える命があります。

皆さんも県職員の一員となり、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？



